箕面高等学校　大川　智　校長　インタビュー

（教育庁）

本日は、校長公募についてのインタビューにご協力いただきまして

ありがとうございます。校長公募に関心のある方に、ぜひ、

校長職の魅力等を発信していただければと思います。

よろしくお願いいたします。

（教育庁）

校長になられる前の経歴も含め、自己紹介をお願いします。

（大川校長）

大阪府立箕面高校校長の大川と申します。

昨年着任し、この春２年目を迎えました。

以前は、定年退職するまで38年近く総合商社で勤務し、大阪や東京に加え、海外の現地法人や事業会社でも勤務することで様々な経験を積みました。

（教育庁）

校長先生になろうと思われたのは、どのような考えからですか？

（大川校長）

還暦を迎えるタイミングで、今後の生き方、仕事について自ら考えました。その際に自分自身の棚卸を実施しました。海外で見聞きし、自ら感じたことは次の世代に伝えたい、商社で培った人材育成マインドや組織運営は、どのような場面であっても活かせるだろう、ロサンゼルス時代に学生相手に何度も行ったキャリア教育授業は極めて楽しかった、教育への関心は高い等といった点から、ふと、高校の校長になれば、経験や経歴を活かすことができ、次の世代に伝えたいとの想いが叶うのではないかと思い、チャレンジしました。

（教育庁）

実際に校長職に就いてみて企業との違い等について感じることはありましたか。

（大川校長）

前職との比較となりますが、教員の皆さんの個性の幅が格段に広いと感じています。

ただ、変化へのチャレンジに、もう少し積極的になってほしいと思うこともあります。

また、公立高校なので当然ではあることですが、税金を使わせていただいているということが根本にあり、お金を使うことに関して、また人材、人員確保に関しての校長の裁量権は極めて限られていると感じています。

それ以外は、違いを感じるよりも寧ろ共通点を見出すように意識しています。

例えば、学校の組織も商社のそれも人材が命。そして、より良き組織づくりと、個々人の成長の実現というものが、いずれの組織においても運営の両輪になります。物事を進めるにあたって、現状をしっかり分析し、その上で次に何が起きるかをいくつか仮説を立てて想定しておくという方法も、いずれの組織運営に有効です。何よりも、多様な気持ち、心を持った人間達が、同じ目的を共有して働いていること、これも共通するところであります。

小さな相違点を見つけてそれに拘泥している暇などありません。

（教育庁）

「校長先生の一日」とは、どのようなものですか？

（大川校長）

7時半に出勤しメールチェックや１日の業務を確認します。

８時20分ごろから校門に立ち、登校する生徒へ朝の挨拶を行います。

その後は、各種会議・打ち合わせ・授業見学・資料作成等、また校長会関連で出張も多く、毎日あっという間に時が経ちます。

普段から、私が大切にしているのは、現場主義です。先生方に用事のある時は極力自分から出向くようにしています。また事前に教員には包括的に了解を得たうえではありますが、フラッと授業見学を行うこともしています。

それ以外では、生徒が校長室に来る機会を意識して設けることや、箕面高校の広報活動も積極的に行うようにしています。

（教育庁）

校長先生がいまお勤めの箕面高校について、「ここが強み」、「ここが自慢」と感じられるのはどのようなところですか？

（大川校長）

本校にはグローバル科が設置されており、多様性の受容マインドの醸成に力を入れています。その一つのカタチとして、海外大学への進学という道を示し、毎年海外大学への進学者を輩出しています。

また、地元地域での行事参加等による地域支援や交流を推進、近隣企業や大学との探究の授業での協働を実践し、地域に根ざした活動を常に意識しています。

生徒は概ね明るく活発で、文武両道を実践しています。私服登校を認めているので、自由な雰囲気が先立ちますが、自由には責任が伴うことを生徒達に十分認識させることで、本当の大人になってほしいという強い思いのもと、日々の教育を実践しています。また、保護者も学校運営に対する理解があります。当然ですが、その分期待も大きいのですが。

生徒や教職員、保護者からの学校評価は悪くないのですが、まだまだ向上するよう、様々な取り組みを進めているところです。

（教育庁）

学校経営で大切にされていることは、どんなことですか？

（大川校長）

昨年、赴任した段階で驚いたことですが、学校での業務の大半が先生方の経験や職人技のみで進められていました。そのような状況は持続可能な体制ではないと考え、校務マニュアルの電子ファイルでの作成をおよそ全ての先生に夏休みの宿題としてお願いしたところ、全先生が期限通り作成してくれるといったことがありました。

校長は、中長期での学校運営の方針を策定し、学校経営を進めるわけですが、実現するためには、ある物事の本質や軸を定め、それを全教職員の温度差なき共通理解とし、あとは皆で邁進するのみと考えています。個性豊かで個々の能力が高い先生方の集団なので、皆のベクトルを同じ方向に向けてリードすることで、その力は何倍にもなると思っています。

私のありたい姿である「大人度高く、温度差なく、感謝と笑いを忘れずに」を機会あるごとに持ち出しています。

（教育庁）

校長職の醍醐味とはどのようなものですか？

（大川校長）

校長次第で学校の雰囲気を変えられることです。

自らの確固たる考えを持った上で、皆の意見も集約し、全体最適の中で方針を決め、即座に実践に移せる、会社で言えば社長であり執行役員といったところでしょうか。

最近では、先生方の中で、私の口癖、キーワードを使う方々が増えており、校長としての私の意識と思いが浸透してきたのだなと実感しています。

さらに、10代の将来性豊かな若者に、直接自分の言葉で語りかける機会が普通にあることも醍醐味ではないでしょうか。私のこれまでの経験を、将来性豊かな若者に伝えることができる機会は他にありませんからね。また、部活の大会や行事、課外活動で生徒達が真剣に取り組んでいる姿は感動以外の何物でもありません。

（教育庁）

これから校長公募に応募しようかと考えていらっしゃる方に、メッセージはございますか？

（大川校長）

校長という職は、今までの自らの歩んで来た道が試される時でもあり、またそれらを思う存分に発揮できる場所でもあります。就任して1年、大変な事があるのはどこで働いても当たり前で、この仕事はその大変さを遥かに超える面白さがあります。この年齢になって、また成長している自分を感じます。気持ちが若く、チャレンジを止めない方、関係者の心を推し測りながら前に進み、生徒の成長と幸せを実現したい方、是非一緒に頑張りましょう。

（教育庁）

本日はどうもありがとうございました。